

教 育 研 究 業 績 書

2020年 5月 1日

氏名 千葉 潤

研 究 分 野		研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
1. 芸術学・芸術史・芸術一般		音楽学、ロシア音楽	
2.			
3.			
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項			
事 項		年月日	概 要
1 教育方法の実践例			
1) 札幌大谷大学音楽学部（平成24～芸術学部）での担当科目			
①「音楽概論A, B」（講義）		平成18年4月～現在	〈単独〉楽典、音響学、楽器学、楽式論等の基礎知識の修得が目的である。
②「音楽史A, B」（講義）		平成18年4月～現在	〈単独〉西洋音楽史（日本の近代音楽史含む）の基礎知識の修得が目的である。教科書のほか、楽譜資料を用いて要点を解説し、さらにA V資料を鑑賞しながら講義内容を確認させる。講義で取り上げた音楽作品は、マルチメディア室を利用して授業時間外に鑑賞できる環境を作り、学生に復習させている。
③「鍵盤音楽史A, B」（講義）		平成18年4月～現在	〈単独〉西洋の鍵盤音楽史を楽譜・A V資料等を用いて概観する。楽曲解説のみではなく、演奏慣習の説明や著名演奏家の紹介等も行なう。ピアノコースの課題曲等も講義内容に含めている。
④「オペラ史A, B」（講義）		平成18年4月～現在	〈単独〉オペラ史を楽譜・A V資料等を用いて概観する。著名演奏家等の紹介も行なう。
⑤「管弦楽史A, B」（講義）		平成18年4月～現在	〈単独〉管弦楽史を楽譜・A V資料等を用いて概観する。管弦楽器の試験課題曲目や大学定期演奏会の演奏曲目等を講義内容に含めている。
⑥「卒業研究」		平成18年4月～現在	〈単独〉音楽指導コース〈実技指導系〉の卒業学年学生を対象とした卒業論文指導。
⑦「芸術文化論」		平成24年9月～現在	〈分担〉オムニバス形式。西洋・東洋の音楽・美術の歴史を時代ごとに比較しながら概観する内容。
⑧「美学B」		平成24年9月～現在	〈単独〉西洋音楽に関する美学・社会学の代表的な理論を紹介しながら、音や音楽の知覚や経験を理論的に反省する。現代音楽の多様な実践を取り上げ、新しい音楽経験の在り方を学ぶ。
⑨「音楽リテラシーⅠ」		2020年4月～	〈単独〉音楽に関する情報の収集、読解、発表のスキルを身に付ける。
2) 札幌大谷大学短期大学部での担当科目			
①「音楽史」		平成18年4月～現在	〈単独〉西洋音楽史（日本の近代音楽史含む）の基礎知識の修得が目的である。教科書のほか、楽譜資料を用いて要点を解説し、さらにA V資料を鑑賞しながら講義内容を確認させる。講義で取り上げた音楽作品は、マルチメディア室を利用して授業時間外に鑑賞できる環境を作り、学生に復習させている。
3) くらしき作陽大学での担当科目			
①「ロシア音楽史」		平成22年9月～平成29年3月	〈単独・集中講義〉19世紀から20世紀初頭までのロシア音楽史を、音楽と社会、文化との関わりを通して概観する。

事 項		年 月 日	概 要		
②「現代ロシア音楽文化」		平成22年9月～平成29年3月	〈単独・集中講義〉20世紀のロシア音楽史を、音楽作品と歴史、政治、文化等との関わりを通して概観する。		
4) 北海道教育大学岩見沢校での担当科目					
①「音楽史Ⅰ」		平成26年4月～7月	〈単独〉西洋音楽史の始まりから初期ロマン派までの基礎知識の修得が目的である。教科書のほか楽譜資料を用いて要点を解説し、さらにAV資料を鑑賞しながら講義内容を確認させる。		
②「音楽学特論Ⅰ」		平成26年4月～7月	〈単独〉西洋音楽史のロマン派から現代までの流れを、音楽様式、芸術思想、社会背景との関わりを通して概観する。		
③「音楽学概論」		平成26年9月～平成27年3月	(単独) 音楽学の研究対象、研究方法について、音楽美学、音楽史学、現代の音楽学等の研究例を紹介しながら、概説した。		
④「音楽学特別演習Ⅰ」		平成26年9月～平成27年3月	19世紀以降の西洋音楽を対象として、音楽史学、音楽美学の問題性、分析方法等を概説し、期末には受講学生が修士論文で取り上げる研究テーマについて発表を行った。		
⑤「音楽学特論Ⅰ」		平成29年4月～現在	(単独) 研究テーマの選び方、資料検索の方法、文献精読や音楽分析の方法等、音楽学的論文執筆の手順について、受講生の研究発表を通して実践的に指導する。		
2 作成した教科書、教材		平成26年7月1日発行	音楽療法科目の教科書として作成。筆者は第2章「音楽と文化・社会」を担当。主として西洋音楽の在り方を文化史、社会史的な視点から概説した。		
①「音楽療法ハンドブック第2章音楽と文化・社会」(共著)					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
①「音楽史を楽しむ」		平成23年10月～現在	NHK文化センター札幌教室教養講座講師。		
5 その他					
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項					
事 項		年 月 日	概 要		
1 資格、免許					
2 特許等					
3 実務の経験を有する者についての特記事項		平成21年4月～現在	日本ロシア音楽家協会運営委員。		
4 その他					
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項					
著書、学術論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)					
1.					
(学術論文)					
1.「エディソン・デニーソフ《死は永き眠り》における変奏技法の諸特徴」		単著	平成29年3月	札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部紀要第47号	現代ロシアを代表する作曲家デニーソフの変奏曲シリーズに見られる伝統と現代との融合の諸相を、代表作の分析を通して明らかにした。
2.「ソ連前衛音楽の様式的転向はなぜ、どのようにして生じたのか」		単著	平成30年3月	科研費助成による基盤研究(C)「20世紀ロシア音楽再考」報告書	科研費助成による基盤研究(C)「20世紀ロシア音楽再考」による平成29年度第2回発表会。筆者は「ソ連前衛音楽の様式的転向はなぜ、どのようにして生じたのか」と題し、本研究の4年間の成果をまとめた。

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(演奏) 1				
(出品) 1				
(その他) (翻訳) 1				
(口頭発表) 1 科研費助成事業「20世紀ロシア音楽再考」による第1回研究会	共著	平成27年2月	文部科学省	科研費助成による基盤研究(C)「20世紀ロシア音楽再考」による第1回発表会。筆者は研究会の司会進行、プロコフィエフ、グバイドゥーリナ等、ソ連作曲家について討論を行った。
2 科研費助成事業「20世紀ロシア音楽再考」による第1回研究会	共著	平成28年8月	文部科学省	科研費助成による基盤研究(C)「20世紀ロシア音楽再考」による平成28年度第1回発表会。筆者は「多様主義再考」と題して、シュニツケの交響曲第1番を分析した。
3 科研費助成事業「20世紀ロシア音楽再考」による第2回研究会	共著	平成28年3月	文部科学省	科研費助成による基盤研究(C)「20世紀ロシア音楽再考」による平成28年度第2回発表会。筆者は「エディソン・デニースフの変奏曲シリーズ」と題して、デニースフの引用技術の分析と意義を論じた。
4. 科研費助成事業「20世紀ロシア音楽再考」	共著	平成29年8月	文部科学省	科研費助成による基盤研究(C)「20世紀ロシア音楽再考」による平成29年度第1回発表会。筆者は「ヴァレンティン・シリヴェストロフの“ポストリュード”様式」と題して、シリヴェストロフの“ポストリュード様式”の手法と美学思想を論じた。
5. 科研費助成事業「20世紀ロシア音楽再考」	共著	平成30年3月	文部科学省	科研費助成による基盤研究(C)「20世紀ロシア音楽再考」による平成29年度第2回発表会。筆者は「ソ連前衛音楽の様式的転向はなぜ、どのようにして生じたのか」と題し、本研究の4年間の成果をまとめた。
(その他) 1. 「魚眼図 展覧会の絵」	単著	平成26年8月	「北海道新聞夕刊」第25792号8月21日	ムソルグスキー「展覧会の絵」の「サムエル・ゴールドデンベルクとシュムイレ」における反ユダヤ主義の表現を解説。
2. 「名曲の深層を探る 第23回 プロコフィエフの日記が問いかけるもの」	単著	平成27年1月	NHK交響楽団「フィルハーモニー」第87巻第1号	プロコフィエフの日記の出版と、作曲家研究における新しい発見について指摘した。
3. 「魚眼図 ガタタンの味」	単著	平成28年3月	「北海道新聞夕刊」第26337号3月3日	芦別名物「ガタタンスープ」を喩えとして、日本と各国民族音楽とが融合した音楽を紹介。

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(その他)				
4. 「魚眼図 運命」	単著	平成 28 年 4 月	「北海道新聞夕刊」 第 26366 号 4 月 1 日	世界的指揮者アーノンクルの逝去に際して、古楽演奏の意義を紹介
5. 「ショスタコーヴィチ研究の新局面」	単著	平成 28 年 5 月	「音楽の友」 6 月号	ショスタコーヴィチに関する最新のアーカイブ研究を紹介。
6. 「魚眼図 フィガロの結婚」	単著	平成 28 年 7 月	「北海道新聞夕刊」 第 26459 号 7 月 6 日	オペラの名作における婚姻関係の表現の変遷を紹介。
7. 「魚眼図 知床旅情」	単著	平成 28 年 10 月	「北海道新聞夕刊」 第 26563 号 10 月 21 日	「知床旅情」の異文同曲「オホーツク舟歌」の歌詞に見られる領土問題の影響について論じた。
8. 「魚眼図 ニューイヤークコンサート」	単著	平成 29 年 1 月	「北海道新聞夕刊」 第 26637 号 1 月 6 日	ヨハン・シュトラウスの創作の歴史的背景を紹介しつつ、現代の政治状況との共通点を指摘した。
9. 「魚眼図 揚げば尊し」	単著	平成 29 年 3 月	「北海道新聞夕刊」 第 26698 号 3 月 9 日	卒業式歌「揚げば尊し」の受容史を辿り、教育思想の変遷を指摘した。
10. 「魚眼図 ボリス・ゴドゥノフ」	単著	平成 29 年 4 月	「北海道新聞夕刊」 第 266727 号 4 月 7 日	オペラ「ボリス・ゴドゥノフ」の成立と上演史を辿りながら、為政者のイメージの変遷を辿った。
11. 「魚眼図 ウンコノ力」	単著	平成 29 年 5 月	「北海道新聞夕刊」 第 26773 号 5 月 25 日	モーツァルトのカノン歌詞の検閲と復活に因み、時代による衛生観の移り変わりを論じた。
12. 「プロコフィエフ／《スキタイ組曲》」ポケットスコア楽曲解説	単著	2019 年 5 月	全音楽譜出版社	プロコフィエフ《スキタイ組曲》に関する楽曲解説
13. 《春の祭典》—メロディ・ハーモニー・リズムの特徴	単著	2019 年 5 月	「レコード芸術 5 月号	ストラヴィンスキイ《春の祭典》に関する楽曲解説
14. 「プロコフィエフ／《組曲「3つのオレンジへの恋」》」ポケットスコア楽曲解説	単著	2019 年 8 月	全音楽譜出版社	プロコフィエフ《組曲「3つのオレンジへの恋」》に関する楽曲解説
15. 「プロコフィエフ／《組曲「キージェ中尉」》」ポケットスコア楽曲解説	単著	2019 年 12 月	全音楽譜出版社	プロコフィエフ《組曲「キージェ中尉」》に関する楽曲解説
16. 「ロシア周辺出身の多民族的な作曲家たち」	単著	2019 年 10 月	丸善出版	『ロシア文化事典』の項目、p. 560-561.